

0.1 Quillen's theorem

Quillen は small category の分類空間に関し、もとの small category 間の functor から誘導された分類空間の間の写像が homotopy equivalence になる条件をととも簡潔な形で述べた。small category の分類空間は CW complex であるので、homotopy equivalence と weak homotopy equivalence は同値である。weak homotopy equivalence を示すためには、その homotopy fiber が weakly contractible かどうかを見ればよい。fibration であれば、単なる fiber をみればよい。では分類空間をとる前の category での fiber、homotopy fiber にあたるものを考える。

Definition 0.1.1

$f : X \rightarrow Y : \text{functor}$ と、 $y \in Y$ に対し f の y 上の fiber、 $f^{-1}(y)$ は X の sub category として定義する。

$$\text{ob}(f^{-1}(y)) = \{x \in X \mid f(x) = y\}, \quad \text{Hom}_{f^{-1}(y)}(x, x') = \{\varphi \in \text{Hom}_X(x, x') \mid f(\varphi) = 1_y\}$$

また、 f の y 上の right fiber、 f/y とは、

$$\text{ob}(f/y) = \{(u, x) \in \text{Mor}(Y) \times X \mid t(u) = x, s(u) = f(x)\}, \quad \text{Hom}_{f/y}((u, x), (v, x')) = \{\varphi \in \text{Hom}_X(x, x') \mid v \circ f(\varphi) = u\}$$

であり、合成が X の morphism の合成として定義する。同様にして left fiber、 y/f も定義される。

Definition 0.1.2

$f : X \rightarrow Y : \text{functor}$ に対し、fiber と right fiber の間には次の functor

$$F : f^{-1}(y) \rightarrow f/y$$

$F(x) = (1_y, x), F(\varphi) = \varphi$ が定義される。この functor が adjoint を持つとき、 f は prefibered であるという。

Theorem 0.1.3 (Quillen's theorem A)

$f : X \rightarrow Y : \text{functor}$ で任意の $y \in Y$ に対し、 f/y or y/f が contractible であるとき、 $Bf : BX \rightarrow BY$ は homotopy equivalence である。

これが有名な Quillen の Theorem A であるが証明の前にいくつか準備することがある。

Lemma 0.1.4

C を small category としたとき、任意の object $x \in C$ に対し、その over category C/x および x/C は contractible である。

proof) C/x は $1_x : x \rightarrow x$ in $\text{ob}(C/x)$ が terminal object で、 x/C では initial object になっているからである。

Theorem A の証明は bisimplicial space を用いて行う。bisimplicial space とは functor $\Delta^{op} \times \Delta^{op} \rightarrow \text{Top}$ のことである。次の Lemma は bisimplicial space の realization に関するものであるが証明は省く。

Lemma 0.1.5

T_{**} を bisimplicial space とすると、次の natural homeomorphism

$$|p \mapsto T_{pp}| \cong |p \mapsto |q \mapsto T_{pq}|| \cong |q \mapsto |p \mapsto T_{pq}||$$

が存在する。

Theorem 0.1.6 (Quillen's theorem A)

$f : X \rightarrow Y$: functor で任意の $y \in Y$ に対し、 f/y or y/f が contractible であるとき、 $Bf : BX \rightarrow BY$ は homotopy equivalence である。

proof) $S(f)$ を $\text{ob}(S(f)) = \{(x, y, u) \in \text{ob}(X) \times \text{ob}(Y) \times \text{Mor}(Y) \mid u \in \text{Hom}(y, f(x))\}$ で、 $(x, y, u), (z, w, v) \in \text{ob}(S(f))$ に対し、

$$\text{Hom}((x, y, u), (z, w, v)) = \{(\varphi, \chi) \in \text{Mor}(X) \times \text{Mor}(Y) \mid \varphi \in \text{Hom}(x, z), \chi \in \text{Hom}(w, y), f(\varphi) \circ u \circ \chi = v\}$$

$$\begin{array}{ccc} y & \xleftarrow{x} & w \\ \downarrow u & & \downarrow v \\ f(x) & \xrightarrow{f(\varphi)} & f(z) \end{array}$$

$$p_X : S(f) \rightarrow X, \quad p_Y : S(f) \rightarrow Y^{op}$$

を projection により定義する。まず p_X が homotopy equivalence であることを示す。 $T(f) : \text{bisimplicial set}$ を

$$T(f)_{p,q} = N_p(Y^{op}) \times_f N_q(X) = \{y_p \rightarrow \cdots \rightarrow \cdots y_0 \rightarrow f(x_0), x_0 \rightarrow \cdots \rightarrow x_q\}$$

により定義する。degeneracy, face map は、 $N_*(Y^{op})$ と $N_*(X)$ のを用いて定義する。first component を forget することにより、bisimplicial set の map

$$\pi : T(f)_{p,q} \rightarrow N_q(X)$$

が定義される。ただし、 $N_q(X)$ は $N_{p,q}(X) = N_q(X)$ として bisimplicial set と見なす。このとき、この realization を考えるが、 $T(f)$ の realization とは、simplicial space $q \mapsto |p \mapsto T(f)_{p,q}|$ の realization と考えられる。ここで q を fix し、simplicial set $U(f) : p \mapsto T(f)_{p,q}$ について見てみると、これは、

$$U(f)_p = \{y_p \rightarrow \cdots \rightarrow \cdots y_0 \rightarrow f(x_0), x_0 \rightarrow \cdots \rightarrow x_q\}$$

であるが、ここでの degeneracy, face map は $N_*(Y^{op})$ によって定義される。つまり、この realization を考えた際、 $N_q(X)$ の部分が違えば、張り合わされる事は無いため、

$$|U(f)| \cong \coprod_{x \in N_q(X)} |U(f)(x)|$$

である。ただし、 $U(f)_p(x)$ は $U(f)_p$ の $N_q(X)$ 部分を x で fix した simplicial set である。 $x = x_0 \rightarrow \cdots \rightarrow x_q$ とおくと、 $U(f)_p(x) = N_p(Y/f(x_0))$ と考えられる。このとき、comma category $Y/f(x_0)$

は terminal object を持つため、 $Y/f(x_0)$ は contractible、よって、 $|U(f)(x)|$ も contractible である。よって、 π の realization は simplicial space 間の map

$$\pi_q : \coprod_{x \in N_q(X)} B(Y/f(x_0)) = |U(f)| \longrightarrow \coprod_{x \in N_q(X)} \{*\} = N_q(X)$$

と考えられるため、dimensionwise で homotopy equivalence であり、 $|U(f)|$ は CW complex であるから π は good simplicial space 間の map であるため、 $|\pi|$ は homotopy equivalence である。また、 $T_{qq} = N_q S(f)$ であり、Lemma より、 p_X は homotopy equivalence

同様の議論を、 p_Y についても繰り返すと、bisimplicial set の map $T_{p,q} \longrightarrow N_p(Y^{op})$ の realization を考えるが、今度は、comma category $Y/f(x_0)$ にあたる部分がちょうど left fiber y_0/f に対応し、

$$\coprod_{y_p \longrightarrow \cdots \longrightarrow y_0 \in N_p(Y^{op})} B(y_0/f) \longrightarrow \coprod_{y_p \longrightarrow \cdots \longrightarrow y_0 \in N_p(Y^{op})} \{*\} = N_p(Y^{op})$$

という simplicial space の map の realization を考えることになる。ここで仮定より、任意の $y_0 \in Y$ に対し、 $B(y_0/f)$ が contractible だから、やはり realization が homotopy equivalence となり、 p_Y もまた homotopy equivalence である。最後に、

$$g : S(f) \longrightarrow S(1_Y)$$

を $g(x, y, u) = (gx, y, u)$ により functor を定義すると、

$$\begin{array}{ccccc} Y^{op} & \xleftarrow{p_Y} & S(f) & \xrightarrow{p_X} & X \\ \downarrow = & & \downarrow g & & \downarrow f \\ Y^{op} & \xleftarrow{p_Y} & S(1_Y) & \xrightarrow{p_X} & Y \end{array}$$

は可換である。任意の $y \in \text{ob}(Y)$ に対し、 $y/1_Y = Y/y$ となるので、left fiber はすべて contractible になっている。よって下の横列に対しても、 p_X, p_Y はいずれも homotopy equivalence であり、 f が homotopy equivalence であることが言える。

Corollary 0.1.7

$f : X \longrightarrow Y$: pre(co)fibered functor で任意の $y \in Y$ に対し、 $f^{-1}(y)$ が contractible であるとき、 $Bf : BX \longrightarrow BY$ は homotopy equivalence である。

一方、Quillen's Theorem B と呼ばれているものは、quasi fibration についての考察である。

Theorem 0.1.8 (Quillen's Theorem B)

$f : X \longrightarrow Y$ を functor とし、任意の $u : y \longrightarrow y'$ に対し、誘導される functor

$$u/f : y'/f \longrightarrow y/f$$

が homotopy equivalence のとき、任意の $y \in \text{ob}(Y), x \in f^{-1}(y) \subset \text{ob}(X)$ に対し、

$$\cdots \longrightarrow \pi_{n+1}(BY, y) \longrightarrow \pi_n(B(y/f), (x, 1_y)) \longrightarrow \pi_n(BX, x) \xrightarrow{Bf_*} \pi_n(BY, y) \longrightarrow \cdots$$

という長い完全列が存在する。

Thorem B は Bf が quasi fibration となる条件を述べているが、この quasi fibration の定義を言い換えておく。

Definition 0.1.9

空間における commutative diagram

$$\begin{array}{ccc} A & \xrightarrow{v} & C \\ u \downarrow & & \downarrow g \\ B & \xrightarrow{f} & D \end{array}$$

が homotopy cartesian であるとは、natural map

$$A \longrightarrow \text{holim}(B \longrightarrow D \longleftarrow C)$$

が homotopy equivalence であるときを意味する。 $\text{holim}(B \longrightarrow D \longleftarrow C)$ とは double mapping track であり、正確に書くと

$$\text{holim}(B \xrightarrow{f} D \xleftarrow{g} C) = \{(b, w, c) \in B \times \text{Map}(I, D) \times C \mid w(0) = f(b), w(1) = g(c)\}$$

という空間であり、natural map とは、 $a \mapsto (u(a), c_{fu(a)=gv(a)}, v(a))$ による対応である。

Remmark 0.1.10

$p : E \longrightarrow B$ が quasi fibration であることと、任意の $b \in B$ に対し、pull back diagram

$$\begin{array}{ccc} p^{-1}(b) & \longrightarrow & E \\ \downarrow & & \downarrow p \\ * & \xrightarrow{b} & B \end{array}$$

が homotopy cartesian であることは同値である。

次は homotopy limit に関する基本的性質である。これは一般的な model category として議論できる。

Lemma 0.1.11

次の commutative diagram

$$\begin{array}{ccccc} X & \longrightarrow & Y & \longleftarrow & Z \\ \simeq \downarrow & & \downarrow \simeq & & \downarrow \simeq \\ X' & \longrightarrow & Y' & \longleftarrow & Z' \end{array}$$

において、縦列はすべて homotopy equivalence とする。このとき、induced map

$$\text{holim}(X \longrightarrow Y \longleftarrow Z) \longrightarrow \text{holim}(X' \longrightarrow Y' \longleftarrow Z')$$

は homotopy equivalence である。

Corollary 0.1.12

homotopy cartesian square

$$\begin{array}{ccc} A & \xrightarrow{v} & C \\ u \downarrow & & \downarrow g \\ B & \xrightarrow{f} & D \end{array}$$

において、 B が contractible であることと、natural map $A \rightarrow F_{g,d} = \text{holim}(* \xrightarrow{d} D \xleftarrow{g} C)$ が任意の $d \in D$ に対し、homotopy equivalence であることは同値。

Lemma 0.1.13

C を small category とし、Top を位相空間の category、 $X : C \rightarrow \text{Top}$ を functor とする。 X_*C は simplicial space で、

$$X_p C = \coprod_{i_0 \rightarrow \dots \rightarrow i_p \in N_p(C)} X(i_0)$$

で degeneracy と face はそれぞれ $N_*(C)$ から誘導されたものとする。

$$g_* : X_*C \rightarrow N_*C$$

を index 対応で与えられる simplicial space の map としたとき、任意の C の morphism $f : i \rightarrow i'$ において、 $X(f) : X(i) \rightarrow X(i')$ が homotopy equivalence ならば、 $g = |g_*| : |X_*C| = XC \rightarrow |N_*C| = BC$ は quasi fibration である。

proof) 証明には Dold-Thom criterion を用いる。つまり、simplicial space の実現における自然な filtration に対し、帰納法で quasi fibration を示す。まず、 $n = 0$ のとき、

$$g_0 : XC^{(0)} = \coprod_{i \in \text{ob}(C)} X(i) \rightarrow BC^{(0)} = \text{ob}(C)$$

は fibration であり、 $g_{n-1} : XC^{(n-1)} \rightarrow BC^{(n-1)}$ が quasi fibration であることを仮定する。このとき、 $U = BC^{(n)} - BC^{(n-1)} \cong \coprod \Delta^n$ であり、

$$g_n : g_n^{-1}(U) \rightarrow U$$

は fibration である。あとは、 $\partial\Delta^n \subset \Delta^n$ が NDR を用いて、 $BC^{(n-1)}$ を $BC^{(n)}$ 内で open set V に膨らませ、

$$g_n : g_n^{-1}(V) \rightarrow V$$

を考え、このとき $X(i) \rightarrow X(i')$ が homotopy equivalence という仮定を用いると、 g_n が $p^{-1}(V)$ 上でも quasi fibration であることが言える。もう少し詳しく言うと、

$$\begin{array}{ccc} XC^{(n)} \times I & \xrightarrow{H} & XC^{(n)} \\ g_n \times 1 \downarrow & & \downarrow g_n \\ BC^{(n)} \times I & \xrightarrow{G} & BC^{(n)} \end{array}$$

の可換図で、 G は NDR representation で H はその lift とし、 $x = ((i_0 \xrightarrow{f} i_1 \rightarrow \cdots \rightarrow i_n), t_1, \dots, t_n) \in BC^{(n)}$ に対し、

$$H_1 : g_n^{-1}(x) \longrightarrow g_n^{-1}(G(x, 1))$$

は、 $X(f) : X(i_0) \longrightarrow X(i_1)$ が homotopy equivalence だから、 H_1 も homotopy equivalence である。よって、 g_n は定義域全体で quasi fibration になっていて、したがって g も quasi fibration である。

Theorem 0.1.14 (Quillen's Theorem B)

$f : X \longrightarrow Y$ を functor とし、任意の $u : y \longrightarrow y'$ に対し、誘導される functor

$$u/f : y'/f \longrightarrow y/f$$

が homotopy equivalence のとき、任意の $y \in \text{ob}(Y), x \in f^{-1}(y) \subset \text{ob}(X)$ に対し、

$$\cdots \longrightarrow \pi_{n+1}(BY, y) \longrightarrow \pi_n(B(y/f), (x, 1_y)) \longrightarrow \pi_n(BX, x) \xrightarrow{Bf_*} \pi_n(BY, y) \longrightarrow \cdots$$

という長い完全列が存在する。

proof) Theorem A の証明を思い出すと、 $p_X : S(f) \longrightarrow X$ は homotopy equivalence で、 $p_Y : S(f) \longrightarrow Y^{op}$ は homotopy equivalence かどうかは分からない。 Bp_Y を詳しく見たとき、 $(p \mapsto |q \mapsto T_{pq}|) \longrightarrow N_p(Y^{op})$ という simplicial space の map の実現であった。さらに詳しく描くと、各次元

$$\coprod_{y_p \longrightarrow \cdots \longrightarrow y_0 \in N_p(Y^{op})} B(y_0/f) \longrightarrow N_p(Y^{op})$$

の index 対応の map であり、functor $Y^{op} \longrightarrow \text{Top}$ を $y \longrightarrow B(y_0/f)$ により定義すると、仮定より、 $y \longrightarrow y'$ に対し、 $B(y'/f) \longrightarrow B(y/f)$ は homotopy equivalence だから、Lemma ?? が使えて、 p_Y は quasi fibration であることが分かる。 Bp_Y の $y \in \text{ob}(Y^{op}) \subset BY^{op}$ における fiber は、上記の simplicial space level の定義を見れば、 $B(y/f)$ である。よって、次の pull back diagram

$$\begin{array}{ccc} y/f & \longrightarrow & S(f) \\ \downarrow & & \downarrow p_Y \\ * & \xrightarrow{y} & Y^{op} \end{array}$$

が homotopy cartesian である。さらに、この diagram を拡張すると、

$$\begin{array}{ccccc} y/f & \longrightarrow & S(f) & \xrightarrow{\simeq} & X \\ \downarrow & & \downarrow & & \downarrow f \\ & (1) & f' & (2) & \\ y/Y & \longrightarrow & S(1_Y) & \xrightarrow{\simeq} & Y \\ \downarrow \simeq & & \downarrow \simeq & & \\ * & \xrightarrow{y} & Y^{op} & & \end{array}$$

の commutative diagram が得られる。(1)+(3) の diagram が homotopy cartesian である。このとき、Lemma ??によると、

$$\begin{array}{ccccc}
 y/Y & \xrightarrow{y} & S(1_Y) & \xleftarrow{p_Y} & S(f) \\
 \downarrow \simeq & & \downarrow \simeq & & \downarrow = \\
 * & \xrightarrow{y} & Y^{op} & \xleftarrow{p_Y} & S(f)
 \end{array}$$

による homotopy pull back は homotopy equivalent になり、これより、(1) の diagram は homotopy cartesian である。さらに、同様に (1)+(2) が homotopy cartesian になる。 y/Y は contractible であるため、Cor ?? y/f と p_Y の homotopy fiber とは homotopy 同値となる。よって、

$$\cdots \longrightarrow \pi_{n+1}(BY, y) \longrightarrow \pi_n(B(y/f), (x, 1_y)) \longrightarrow \pi_n(BX, x) \xrightarrow{Bf_*} \pi_n(BY, y) \longrightarrow \cdots$$

の完全列を生み出す。

Corollary 0.1.15

$f : X \longrightarrow Y$ が pre(co)fibered であって、任意の Y の morphism $f : y \longrightarrow y'$ に対し、 $f^* : f^{-1}(y') \longrightarrow f^{-1}(y)$ が homotopy equivalence ならば、任意の $x \in f^{-1}(y) \subset \text{ob}(X)$ に対し、

$$\cdots \longrightarrow \pi_{n+1}(BY, y) \longrightarrow \pi_n(B(f^{-1}(y)), x) \longrightarrow \pi_n(BX, x) \xrightarrow{Bf_*} \pi_n(BY, y) \longrightarrow \cdots$$

という完全列が存在する。